

環境活動レポート

株式会社 大 建

対象活動期間 平成22年4月1日～平成23年3月31日



太陽光発電増設



LED照明に変更



二重サッシに変更

【目次】

1	環境方針	1
2	環境活動の規模	2
3	E A 2 1 推進体制	5
4	環境目標とその実績	6
5	環境活動の取組計画と評価	7
6	環境関連法規制の遵守	9

1 環境方針

(1) 経営理念

我々は、地域の人々がゆとりと安らぎのある、そして安心して暮らせる、そんな快適な環境造りに、貢献することを使命とする。それによって、人々の満足を、我々の喜びとして、一人ひとりが、能力の向上と人格に形成を行い、総合コンサルタント業を発展させる。

(2) 行動指針

当社は、九州一円で業務を進めていく中で、業務処理における過程で、環境への影響を理解し、自ら責任を持ち社員一丸となって、エコアクション 21 環境経営システムを構築・運用し、継続的な環境への負荷の削減に努めます。このため以下の環境への取組を積極的に推進します。

- ①環境関連法規制とその他要求事項を遵守します。
- ②環境目標を定め、定期的に見直し、継続的改善と汚染の予防に努めます。
- ③環境への負荷を軽減するため、次の活動を実施します。
 - (イ) 地球温暖化防止のため、省エネルギーを推進します。
 - (ロ) 事業活動に伴う廃棄に関して、分別を積極的に実施することにより、リユース、リサイクルに努め廃棄物を削減します。
 - (ハ) 使用する水の削減に取り組めます。
 - (ニ) 使用する化石燃料の削減に取り組めます。
- ④この環境方針は、朝礼や各会議を通じて全社員に周知徹底するとともに、環境保全に関する意識を高め、社内における環境保全状況の知識・認識の向上を図ります。

平成 22 年 4 月 15 日

福岡市早良区南庄 2 丁目 9 番 12 号

株式会社 大 建

代表取締役

松尾憲親

2 事業活動の規模

(1) 会社概要

- ①会社名 株式会社 大 建
- ②代表者名 代表取締役 松尾 憲親
- ③所在地 〒814-0031 福岡市早良区南庄 2-9-12
TEL 092-851-3900 FAX 092-851-3947
E-Mail : daiken@d-ken. jp (代表)
<http://www.d-ken.jp>
- ④設 立 1974年3月20日
- ⑤資本金 1,000万円 社員数 43名
- ⑥支店・営業所
- 佐賀支店 : 〒849-0922 佐賀県佐賀市高木瀬東3丁目10番8号
TEL : 0952-34-4882 FAX : 0952-34-4883
- 熊本支店 : 〒860-0833 熊本県熊本市平成3丁目8番1号
TEL : 096-334-5420 FAX : 096-334-5421
- 鹿児島営業所 : 〒890-0008 鹿児島県鹿児島市伊敷4-12-13
TEL : 099-218-3737 FAX : 099-218-3738
- 大分営業所 : 〒870-0327 大分市小佐井1-12-35
TEL : 097-524-2316 FAX : 097-524-2317
- 鳥栖事務所 : 〒841-0061 鳥栖市轟木町1480-2-11
TEL : 0942-80-0337 FAX : 0942-80-0338
- 延岡営業所 : 〒882-0856 延岡市出北1-13-3-II-202
TEL : 0982-26-5225 FAX : 0982-26-5226
- ⑦登録業種 建設コンサルタント・補償コンサルタント
測量業・地質調査・一級建築士事務所・宅建取引業
保険業・工事業（登録申請中）
- ⑧事業種目 建設コンサルタント：道路、河川・砂防、構造物、交差点、橋梁、上下水道、造成、農業土木、公園、ビオトープ、開発行為
各種施工管理、環境アセスメント
- 補償コンサル
タント：土地調査、土地評価、物件、機械工作物、営業補償・
特殊補償、事業損失、工法検討、補償説明、事業認定
裁決申請図書等作成
- 測 量 部 門 : 確定、深淺、GPS、路線、基準点
- 地質調査部門 : 機械ボーリング及び室内試験
- 建 築 部 門 : 設計・施工管理
- ランドマネジメント部門 : 土地売買、宅地分譲販売
- Education 部門 : 保険代理店、緊急人材育成校

⑨対象範囲 大分営業所、鳥栖事務所、延岡営業所は更新時に追加対象とする

⑨沿革 1974年 3月 20日：福岡市西区祖原12番30号において、
 有限会社 大建測量設計として設立
 1978年 8月 1日：福岡市西区高取2-4-10へ本社移転
 1984年 6月 20日：株式会社へ組織変更 大建測量設計 株式会社
 1988年 4月 1日：株式会社 大建に社名変更
 1988年 8月 1日：佐賀支店開設
 1990年 1月 27日：資本金1,000万円に増資
 1990年 4月 8日：現住所(福岡市早良区南庄)に本社移転
 1990年 6月 1日：熊本支店開設
 1998年 5月 21日：松尾憲親 代表取締役に就任
 2004年 10月 29日：中小企業経営革新支援法承認 (16経金第142号-8)
 2005年 10月 1日：従業員持株会設立
 2005年 12月 22日：福岡県「子育て応援宣言」登録(福岡県第44号)
 2006年 8月 1日：福岡県中小企業経営革新促進補助金交付
 2007年 3月 7日：人財育成・成果品検証ﾌｻ「e-補償くん」販売開始
 2007年 6月 26日：特許出願「e-補償くん」(教育支援装置及び電子教材)
 (特許2007-168044)
 2008年 1月 25日：福岡銀行より銀行保証付無担保私募債の引受
 2008年 8月 21日：環境省「エコアクション21」認証・登録(0002801)
 2009年 9月 8日：鹿児島営業所開設
 2009年 11月 13日：厚生労働省「緊急人材育成支援事業訓練」認定
 (認21-40-02-00-0103)
 2010年 5月 17日：特許出願「建築物の改築方法およびその方法により改築された建築物」(特許2010-113337)

⑩賞歴 国土交通行政功労者表彰(国土交通省)

平成 5年 7月 15日	熊本北バイパス(2工区)建物等調査(その1)業務	九州地方建設局長賞
平成 6年 7月 18日	一般国道201号穎田町(外1件)用地調査等業務	北九州国道工事事務所長賞
平成 8年 7月 11日	黒崎バイパス用地調査(206)業務	九州地方建設局長賞
平成 9年 7月 14日	一般国道57号島原深江道路補償説明等業務	雲仙復興工事事務所長賞
平成10年 7月 23日	飯塚バイパス忠営・忠隈地区用地測量(その2)業務	北九州国道工事事務所長賞
平成11年 7月 15日	唐津道路半田地区補償説明業務	佐賀国道工事事務所長賞
平成12年 7月 14日	日奈久芦北道路(二見地区・田浦地区)補償説明業務	八代工事事務所長賞
平成13年 7月 19日	森山拡幅(7工区)建物調査等(その3)業務	長崎工事事務所長賞
平成14年 7月 18日	合志野地区補償説明外1件業務	八代工事事務所長賞
平成14年 7月 19日	福岡外環(福岡大学)貯蔵タンク調査等業務	福岡国道工事事務所長賞
平成15年 7月 22日	森山拡幅(7工区)営業調査等(その1)業務	長崎河川国道事務所長賞
平成16年 7月 16日	北方延岡道路曾木西地区用地調査等業務	九州地方整備局長賞
平成16年 7月 16日	巖木バイパス長部田地区用地調査等業務	九州地方整備局長賞
平成18年 7月 28日	日奈久芦北道路(20工区)補償説明業務	八代工事事務所長賞
平成19年 7月 20日	延岡道路1工区(北川地区外)用地調査等業務	延岡河川国道事務所長賞
平成19年 7月 31日	赤木橋地区用地調査等業務	宮崎河川国道事務所長賞
平成22年 7月 16日	平成21年度木塚地区補償説明業務	九州地方整備局長賞

(2) 環境保全関係の責任者及び担当者連絡先

代表責任者	代表取締役	松尾 憲親
環境管理責任者	取締役	岡本 和寿
担当 (E A推進事務局)		大神 優子
連絡先	〒814-0031 福岡市早良区南庄 2-9-12	
	T E L 092-851-3900	F A X 092-851-3947
	E-Mail : daiken@d-ken.jp (代表)	

(3) 新規事業の展開

わが社のVISION

「豊かなまち」を創造するディベロッパーになる！

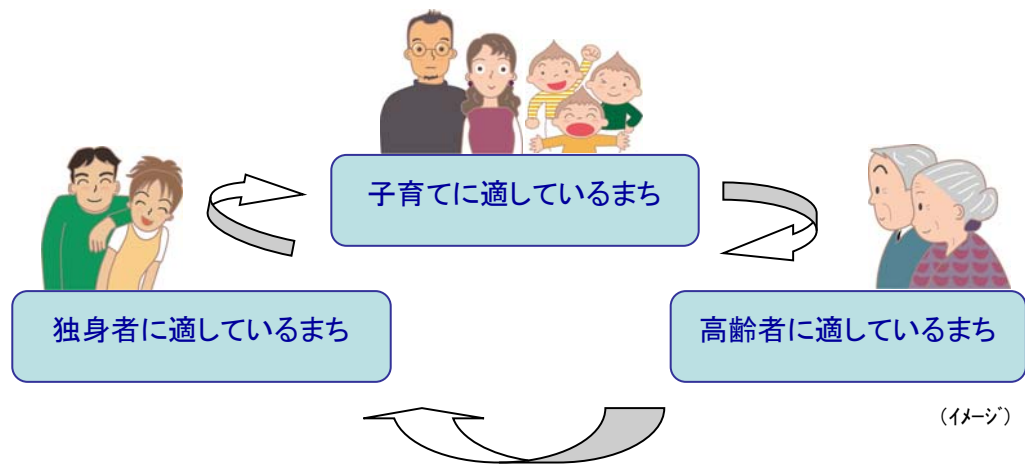
- ①大衆が住宅ローンを組める値段（目指すは「住宅相場の半額」）で誰もが住みたくなるようなデザイン・機能性・耐久性・快適性を持つ住宅地がある
- ②住宅の敷地面積が平均より広い
- ③普段のくらしが快適
(商業・病院・金融など日常生活に欠かせない施設が徒歩圏内にある)
- ④自然エネルギーを利用したエココミュニティのため水道光熱費が安い
- ⑤犯罪を許さない（住宅の目がまち全体を守る）
- ⑥近郊にオフィス（産業）があり、通勤時間が60分以内
- ⑦住民の憩いの場として気軽に利用できる施設（温泉・プール・ゴルフなど）
- ⑧緑豊かな住環境と交通安全に配慮した道路整備
- ⑨住宅価格の値上がりが期待できる
- ⑩住宅の買取保障が明確にある
- ⑪安価な教育費で子供が志（目標）を持てるような教育が受けられる
- ⑫まち自体が利益を生む仕組や循環型コミュニティのため公的コストが安い
(特に高齢者に対して)

①を絶対条件とし、②以降の付加価値の追加を仲間と共に挑戦していく



【目指すゴール】

ライフサイクルに応じて気楽に選択できる「まち」を提供できる会社



国の基幹産業である「住宅」と「車」

車はライフサイクルに応じて乗り換えられる。独身のときに乗る車、結婚や家族が増えたときに乗る車など、様々な生活環境に応じて車を変える。査定システムと中古車市場の存在があるため、人々は安心して車両の売買を繰り返す

翻って、住宅市場

どこまで下がるか分からない価格下落のリスクのため同じ家に住み続ける人々

戸建ての資産価値を感じながらも高価な住宅価格のため賃貸住宅を選択せざるを得ない人々

子育てに適した環境に合う「まち」がないために引っ越せない人々などなど、決して豊かとはいえないわが国の住宅環境

そんな状況に風穴を開けたい

土地を探す段階からどんな人々が暮らすのに適した「まち」であるかを調査検討し、作成したコンセプトをもとに同じ志を持った仲間と共に開発・建設・建築を行う

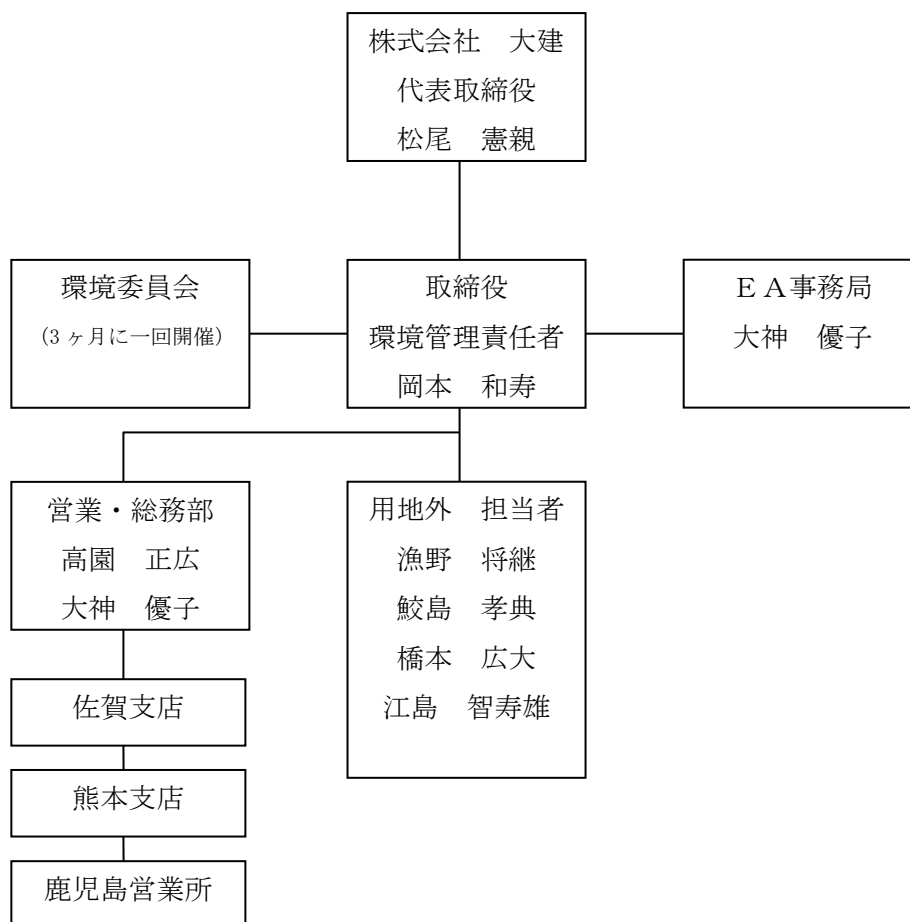
多くの国民が選択肢として検討できる「買える価格」で住宅地を提供する

普段の生活に欠かせない商業・金融・病院などの誘致や安心安全な仕組を持つ快適な生活環境づくりを行う
住宅価格の下落におびえることなく、むしろ値上がりが期待できるような誰もが住みたくなる住環境とそれを支える買取の仕組み

そんなゆとりと安らぎのある豊かなまちづくりを行いながら、多くの国民がそれぞれのライフサイクルに応じて気楽に選択できる様々な「まち」の提供ができる会社を目指していく

そんな VISION 達成に我が社は取組む！

3 EA21 推進体制



氏名	所属	役割・責任・権限
松尾 憲親	代表取締役	全体統括、環境方針の設定、取り組みを実施する為の資源（人・物・金）の準備、全体の評価と見直し
岡本 和寿	取締役	全体の把握、環境管理責任者、環境経営システムの構築、運用、社長にその状況を報告する
	EA21 委員会	経営者会議メンバー、3ヶ月に1回開催し、環境目標の達成状況及び環境活動計画の実行状況を審議する
岡本 大神	EA21 事務局	EA21 文書及び記録類の作成・維持・管理
大神 漁野、鮫島	総務部 用地部外	電力、水の消費量、廃棄物排出量の記録・管理
高園	営業車両	車燃料（ガソリン、軽油、タイヤ空気圧調整）、運転等の記録・管理
江島・橋本	用地部外車両	車燃料（ガソリン、軽油、タイヤ空気圧調整）、運転等の記録・管理

4 環境目標とその実績

(1) 主要な環境目標と環境負荷・実績

環境目標	実施項目	単位	18年度	20年度		21年度		22年度	
			実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
二酸化炭素 排出量削減	CO2 排出量	Kg	82,733	85,345	69,843	82,981	71,812	82,115	63,467
	電力の削減	Kwh	41,996	40,736	39,894	40,316	40,855	39,896	35,123
	太陽光発電量	Kwh	-358	-358	-486	-358	-325	-358	-845
	ガソリン	ℓ	20,592	19,975	17,524	19,769	19,265	19,563	17,528
	軽油	ℓ	5,848	5,672	2,724	5,614	1,715	5,555	1,369
	灯油	ℓ	620	601	0	0	0	0	0
	LPG	Kg	61	59	46	58	30	58	52
廃棄物	可燃ごみ	Kg	-	-	491	481	545	476	500
排水量	水道水	t	227	220	215	217	194	215	172

※ 平成18年度の実績を基準とし、削減目標を設定しています。

※ 可燃ごみは20年度実績を基準とし、削減目標を設定しています。

(21年度目標は、20年度実績×98%、22年度目標は、20年度目標×97%)

(2) 上記以外の取組

紙資源のリサイクルを実行しています。

弊社が作る商品は、報告書や図面ですので「全て紙製」です。以前は廃棄物として処分していましたが、EA21導入後はリサイクル業者と契約し、ほとんど再生紙として再利用されています。

また、リサイクル業者へ持ち込んだ時に白上質紙（コピー用紙）は、当社社員立会いの下でシュレッダー処分しており、個人情報の流出を防いでいます。

	18年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績
白上質紙	未計量	697kg	702kg	579kg
新聞紙	未計量	43kg	15kg	17kg
段ボール	未計量	186kg	149kg	122kg
包装紙・封筒	未計量	657kg	355kg	387kg
計	未計量	1,583kg	1,221kg	1,105kg

5 環境活動の取組と評価

(1) 取組

取組計画	実施事項
<p>①二酸化炭素排出量の削減</p> <p>平成 18 年度実績 82,733kg 平成 22 年度目標 82,115kg 平成 22 年度実績 63,467kg</p> <p>(イ)化石燃料の使用量削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ハイブリット車や低燃費車への計画的な変更 ・ 車両の急発進、急停車の禁止、通常走行時 2000 回転/h 保持 ・ タイヤ空気圧の定期点検・調整 <p>(ロ)電気使用量の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 空調の適温化の実行 夏(6月～9月程度は 25 度～27 度)、冬(10月～3月程度は 21 度～23 度) ・ 不要電力節約(昼休み電源 OFF、休日出勤を極力やめる) ・ 太陽電池使用の継続 ・ 照明機器の省エネルギー化を進める 	<p>①平成 18 年度の実績に対して約 24%の削減が実行できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ディーゼル車を 1 台廃車、遠方には極力ハイブリット車で行くように社員に周知し実行 その結果ガソリンの使用量は前年度比約 10%削減できている。 ・ 太陽光発電を約 4kw 増設、2 重サッシの追加、LED 照明への変更等で、使用電力量が平成 18 年度と比較して約 15%削減できている。 ・ 空調の適温化は、個人に温度差があり温度を固定していたものを、余裕のある温度域内で設定するように変更した。
<p>②廃棄物排出量の削減</p> <p>(イ)リサイクルの徹底</p> <p>(ロ)紙使用量の削減</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社内で紙資源の担当者を決め、定期的にリサイクル業者へ持ち込み、白上質紙(コピー用紙)はシュレッダー処理し、個人情報流出を防いでいる。また、社内の個人資料等は、50%に縮小し印刷することで、使用量は半減することになった。
<p>③総排水量の削減</p> <p>(イ)雨水の再利用</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ トイレの水タンク内のペットボトルや、水道の節水コマの設置は実行したが、削減量には限度があり、今年度は雨水の再利用のためにタンクを 2 基設置し総貯水量を 1 t とした。その雨水は植木や洗車等に活用している。

(2) 取組現場

①消火訓練

平成 22 年 6 月 18 日 毎年定例となった行事で、本社内で福岡市早良消防隊員のご指導による消火訓練を実施しました。社員全員が消火器を触って、放水を経験しています。



②再生可能エネルギー利用への取組み

CO2 排出を削減する対策として、雨水、太陽光、太陽熱、植物等この自然界のエネルギーを利用する方法があります。当社は平成 12 年から太陽光発電（約 4.8kw）を行なっておりますが、今年度福岡市の補助金を受け約 4.4kw 増設し合計約 9.2kw としました。また、LED 照明への変更と、窓を 2 重サッシに変更等で、電気の総使用量は前年比で約 15%削減できました。



(3) 代表者の評価

平成 19 年度の試行期間から 4 年目を迎えました。取組み始めた当初は『節約』でしたが、今では『経費削減』のために取り組む内容を検討するようになりました。水道蛇口の節水弁から始まり、今では自然エネルギーの活用まで拡大しました。特に 2 重サッシは、『音が静かになった』『暖房が良く効く』と社員にも好評です。

また、朝顔を植えて緑のカーテンも実験中です。雨水タンクも増設し総貯水量を 1 t としました。この雨水は散水や洗車に使っていますが、将来は屋根に散水し表面温度上昇の抑制に利用する予定です。この夏の冷房効率の向上や、一層の経費削減に貢献してくれるものと思われま

す。これらの設備を設置するに当たっては初期投資が必要ですが、その結果の削減量は全て数字で表し、金額に変換し社員にも公表しています。このような当社の取り組みが、社会全体に広がるように一層の努力を継続致します。

6 環境関連法規制の遵守状況

(1) 当社に適用する主な関連法規

法規制等の名称	遵守状況
環境基本法	遵守
循環型社会形成推進基本法	遵守
地球温暖化対策の推進に関する法律	遵守
廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄法）	遵守
使用済自動車の再資源化等に関する法律	遵守

(2) 自己点検した結果、環境関連法規への違反はありません。なお、関係当局よりの違反等の指摘、及び訴訟等も過去3年間ありませんでした。